

## 実施概要

### 1. 日時・会場

平成 26 年 12 月 18 日（木）13：30～17：00

立命館大学朱雀キャンパス 3 階 304 教室

[http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap\\_suzaku\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_suzaku_j.html)

（京都市中京区西ノ京朱雀町 1）

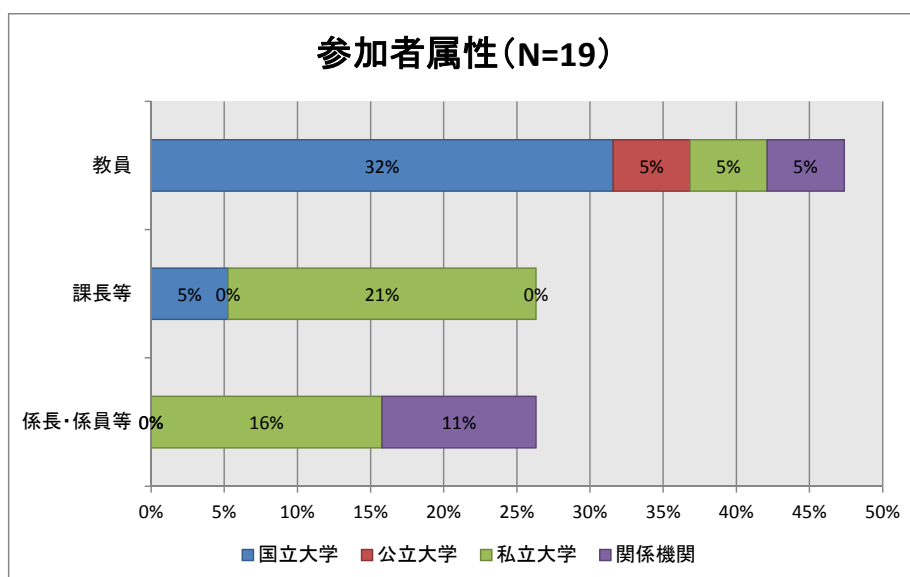
### 2. 対象

- ・ IR 担当者や、IR に興味があり大学評価や学務、経営企画等に関連する調査などに従事したことがある教職員のうち、積極的に質問等が行える方。
- ・ 大学の IR を支援することを生業とする業者の方で、米国の IR 事情に興味があり、積極的に質問等が行える方。

### 3. 参加者について

今回の勉強会では、計 20 名からの申し込みがあり、当日は講演者及び司会者（計 6 名）を含む 19 名が参加しました（N=19）。参加者の属性分析は、申し込み時に参加者からご提供頂いた所属や職種等の情報を基に行いました。なお、「参加者」には、国公立大学及び関係機関の「通常会員」、大学評価コンソーシアムの「運営協力者」及び「幹事」を含んでいます。

職名の属性として、「教員」、職員の「課長等」及び「係長・係員等」に分けて示します。「課長等」には、課長、副課長、課長補佐またはそれ以上の役職を含み、「係長・係員等」には、係長、主事、部員または会社等の社員を含みます。



職員の参加は、全体の 53% を占めており、課長等では国立大学の職員が 5%、係長・係員等では関係機関の職員が 11% 参加しているものの、職員全体としては私立大学の参加者が 37% を占めていた。また、教員の参加は、全体の 47% を占めており、国立大学の教員だけで 32% であった。

ただし、講演者5名が全員教員であった点を除くと、教員、課長等及び係長・係員等の割合はほぼ同程度であった。

このことから、私立大学において、IR 室の設置や米国における IR 活動に対する関心が高いことが伺える。

#### 4. 参加費

徴収しませんでした。

#### 5. タイムテーブル

13:30-13:36 趣旨説明（小湊）

13:36-15:35 講演&ディスカッション

・米国で一般的な、リアルタイム質疑応答・補足スタイルで実施します。また、ハンドアウトの事前配布については検討中です。

※途中で割って入るリアルタイム質疑応答を行う場合、ハンドアウトを用いた先回り質問が入ってくると進行しにくいのですが、前はハンドアウトがあった方がよかったという声も多かったので、検討させてください。なお当日の配布がない場合、後日、配布します。

13:36-14:17

九州大学 基幹教育院 准教授 小湊 卓夫

福岡大学 人文学部 准教授 佐藤 仁

「大学評価と Institutional Effectiveness-IR の役割をめぐって」

大学評価と IR の関係を IE というキーワードで読み解くために、南部地区基準協会 (SACS) と IE と名の付くオフィスを持っているジョージア州立大学、エモリー大学 (ジョージア州)、ヒューストン大学ダウンタウン校 (テキサス州) への訪問調査を行い、内部質保証と IR をどう理解するかについての示唆を得たことについて報告を行った。

14:17-14:50

山形大学 学術研究院 教授 浅野 茂

「米国北東部地域の大学における IR・アセスメント業務の実際（仮題）」

メイン州立大学アーガスタ校の本田さんと開発した IR 業務を 4 象限で整理する手法、意思決定支援を捉えるための理論枠組みを用いて、米国北東部に位置する大学で展開されている IR・アセスメント業務の実態について調査を行った。本調査では、データ作成及び提供者である IR とアセスメント業務担当者双方へのヒアリングを行うことで、それぞれの部署の関係性と実際に実施している業務を把握した。さらに、データ利用者である Provost にもヒアリングを行い、実際に IR とアセスメント担当者または部署が作成しているデータのうち、こういったデータが重視され、どのようにして意思決定に活用されているのかの情報を得ることができた。当日は、これらの調査結果を参加者と共有し、質疑応答を交えて討議を行った。

14：50－15：40

「ミネソタ州立の2大学における IR 業務の実際と諸活動の数量的把握について」

茨城大学 大学戦略・IR 室 助教 畠田 敏行

鳥取大学 学長室 IR セクション 学長特別補佐 (IR 担当) 大野 賢一 [大学評価室 准教授]

ミネソタ州立大学機構 (MnSCU) の2大学において、教学マネジメントと IR の関係を調査した (11/10-11/15)。ウィノナ州立大学でアセスメント業務の実際、ベミジ州立大学の両大学に於いては大学の諸活動をどのように数量的に捉え、大学の経営に活かしているのか等の調査結果を報告した。

15：35－15：45 休憩 (質問・感想紙回収)

・うまく前のセッションでご発言いただけなかった方や、発言はできたものの確認しておきたいことがある方やコメントがある方に質問・感想紙にご記入いただいた。

15：55－17：05 質疑応答と討論

・全ての質問に回答しました。

※その結果、情報交換タイムは時間の関係でカットとなりました。

(畠田 [茨城大]・大野 [鳥取大])